

講座⑰多極化する世界と大阪

第1講義	現代に生きる英国ヴィクトリア朝の文化
2025年4月に大阪・関西万博が開幕しましたが、遡ること約170年前、ロンドンで世界初の国際博覧会が開催されました。水晶宮（クリスタル・パレス）には多くの人々が詰めかけ、莫大な利益を生み、19世紀英国ヴィクトリア朝の記念碑的なイベントとなりました。本講義では英国が繁栄を極めたと言われるヴィクトリア女王統治下のイギリス文化を概観し、現代の日本との繋がりを考察します。	

第2講義	「ロシア」とは何か－法と宗教を切り口として考える－
ロシアによるウクライナ侵攻から三年余が経ちました。国際社会ではロシアの行動を一面的に批判する声強い一方、その背景を理解しようとする視点は限られています。本講義では「ロシア」を理解する糸口として、法と宗教に着目します。ロシアでは法は権力者の命令として作用し、多数派宗教である正教は独自の人権観を形成してきました。西欧との比較を通じて多様な価値観を学び、「平和な国際社会」について考える契機とします。	

第3講義	アメリカと構造的差別－人種とは何か
この講義では、米国において特に「黒人」という人種概念がどのように作られ、構造的差別を生み出しているかを考察することで、トランプ政権下での反DEI（多様性、公平性、包摂性）進行を再検討します。講師翻訳の、ウィナブスト著「人種－『人間』という概念に見られる存在論上の危険性」（シュエ、ガーチャー編著『女の子のための西洋哲学入門』第13章 フィルムアート社 2024年）にも触れます。	

第4講義	南河内地域における推古朝の国土開発
飛鳥時代7世紀初頭の推古天皇の時代には、畿内各地で大規模な国土開発が行われました。南河内地域でいえば、古市大溝（羽曳野市）や丹比大溝・河合遺跡（松原市）などがその一例です。本講義では、これらの南河内地域における推古朝の国土開発について、東アジア世界の動向と比較しながら考えてみたいと思います。	

第5講義	「大阪・KANSAI」観光圏の将来像を考える
コロナ惨禍を乗り越え、訪日外国人旅行者数は過去最高を更新し続けている。日本政府は6000万人（2030年）を目標数値に定め、都市圏・地方を問わず、受入れ体制の強化に努めている。特に「大阪・KANSAI」観光圏では、大阪・関西万博の開催（2025年）・「統合型リゾート」大阪IRの開業（2030年）を起爆剤に、関西圏が有する歴史的・文化的な特性を活かしつつ、その姿を大きく変えようと動きは始めている。	

第6講義	地域の魅力の見つけ方－大阪の地下鉄を例に
自分が住んでいるまちの魅力を尋ねられた時に、「自分のまちには何もない」と答える住民は少なくありません。しかし、少し見方を変えるだけでいろいろなものが見えてきます。この講義では、大阪の地下鉄を例に、普段何気なく見たり使ったりしている身近なものでも、見方次第でさまざまな魅力が見えてくることをお伝えします。この講義を聞いた後、いつも通っている道がちょっとワクワクするようになれば幸いです。	